

土砂災害の恐ろしさ
 足羽第一中学校 二年 本田幸太郎 ほんだ こうたろう
 一月一日午後四時ごろに、最大震度七の
 ても大きな地震が石川県をおそいました。地
 震により、多くの建物が倒壊し、水も使えな
 くなり、大規模な火災も発生しました。さら
 にその後、山から大量の土砂や水などがまる
 で津波のように一気に下流に流れてくる「山
 津波」が起き、多くの家屋が土砂に埋めま
 した。この地震によって亡くなった人の数は、
 二九九人にも及び、土砂災害では、三十一人
 が亡くなっています。
 こんなにたくさんの人の命を奪った、土砂
 災害ですが、土砂災害とは一体何でしょうか。
 土砂災害は「土石流」「地すべり」「崖崩れ」
 の三つに大きく分類されます。これらの違い
 について説明すると、まず、土石流は、大雨
 によって山や谷の土や石、砂などが水と混ざ
 って、どろどろになり、一気に流れ出る現象
 で、破壊力が大きく、速度も速いため、大き

な被害をきたしてしまふのが特徴です。次に、地すべりとは、ゆるい傾きの傾斜が、雨などで染み込んだ地下水によって、広い範囲にわたって滑りおちていく現象です。そのため、家や畑なども、一緒に滑りおちてしまふのが特徴です。最後に、崖崩れとは、雨水が崖にたくさん染み込むことで起きたり、地震の揺れによって起きます。一気に大量の土砂が崩れ落ちるため、崖の下にいる人は逃げ遅れてしまふことが多いたが特徴です。

様々な種類がある土砂災害ですが、これらを防ぐ取り組みは何か行われているのでしょうか。今回は土砂災害の中の一つ、崖崩れを防ぐ工事について説明します。崖崩れを防ぐために行われる工事には、崖を崩れにくくする工事と、崩れてきた土砂を安全に受け止める施設を作る工事があります。崖を崩れにくくする工事では、崖崩れの危険がある斜面をコンクリートでめさえて、崩れにくくします。また、雨が直接地面に当たってビビが入った

リ、崩れやすくならないようにするため、
草や木を植えることもあります。崩れてきた
土砂を安全に受け止める施設を作る工事では、
崩れてくる土砂を受け止める壁や柵を斜面か
ら少し離れたところに作る工事のことです。
そうすることによって、万が一崖崩れが起きても、
崖の下り家などが、大きな被害を受けずに済
みます。

ですが、土砂災害対策ができている崖は、
ニセパイサントに留まっており、半分以上が

対策されていなり状態です。そのため、一人
一人が土砂災害対策をすることが大切です。

自分でできる対策は、まず、普段から飲料
水、非常食、衣類、ランプなどを最低でも三
日分。できれば一週間分を用意し、いざ避難
する時にすぐ持っていけるようにします。
そして、自分が住んでいる場所は、土砂災
害警戒区域かどうかを確認し、避難の際に
は、どこへ逃げるのか、どうやって行くのか
を確認することです。もし、強い雨が降り出

したろ、土砂災害警戒情報に注意し、警戒レベル4になつたら家族や親せき、地域の方々に声をかけ合つて避難をしましょう。また、土砂災害や地震などの災害が起きた時に、SNSで嘘の情報が発信されることがあります。その水うの目的は、詐欺であつたり、インプレッション数を多く得るために行われ、ていることがあります。さらに、そのような嘘の情報が発信されると、人々は、得体の知れないことが起きていくという不安、いつ事態が収まるのかという怒り、そして、少くとも人の助けになる情報を伝えようという善意が組み合わさることによつて、それが拡散されてしまふ悪循環が起きてしまいます。そういった災害時の嘘の情報にだまされないのでには、本当かどうか分かるない情報がきた時には、うのみにしない。拡散しない、すぐに行動にツなげないという情報に対する態度を身にツけることが大切だそうです。

土砂災害は、地震や大雨などの災害に重なる

って起きることもある災害で、人の命を簡単に奪ってしまつてつもなく恐ろしい自然災害なので、一人一人が土砂災害に少しでも関心を持ち、もしも、土砂災害が起きてしまった時にも、お互いに助け合つて、命や財産を守ることも大切なことがかりました。さらに、災害が起きた後には嘘の情報が飛び交っている状態で、正しい情報を見極める必要性。それに、あやまつて嘘の情報を拡散させて、自分が加害者にならないうようにしないといけないと思ひました。